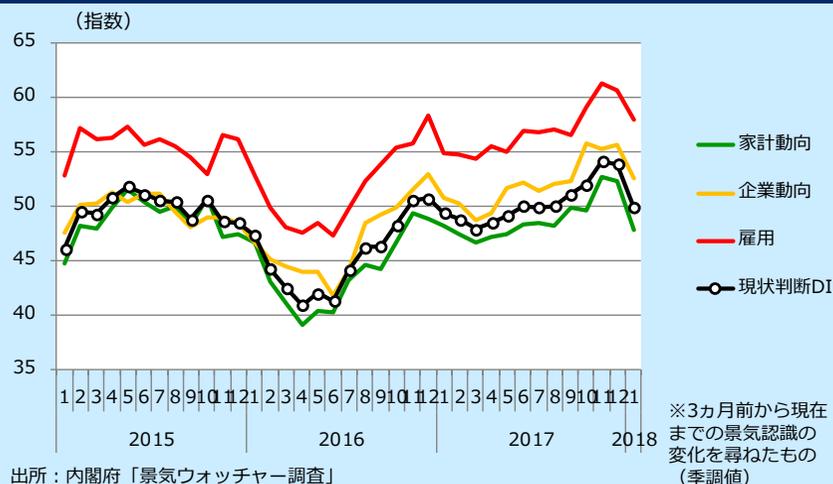


# 日本：マインド関連指標（2018年1月）

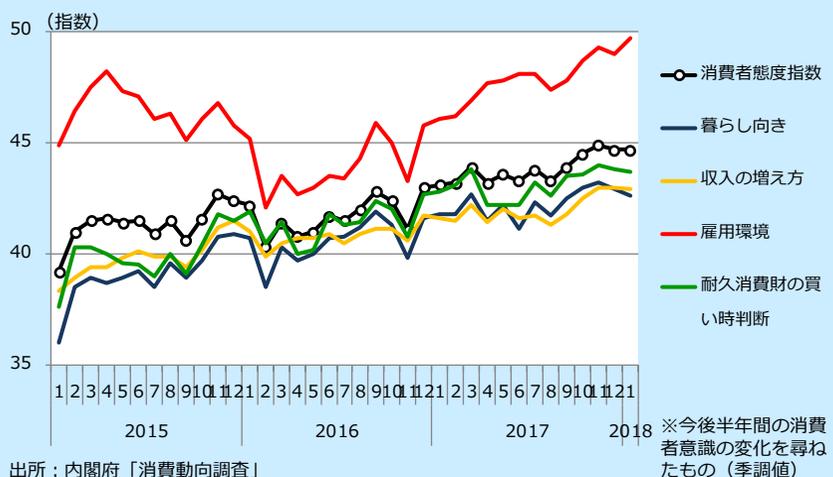
## 一家計・企業ともに天候不順を主因にマインド低下

*MRI Daily Economic Points*  
February 8, 2018

### 景気ウォッチャー調査



### 消費動向調査



### 評価ポイント

#### 景気ウォッチャー調査(2/8公表)

- 18年1月の景気の現状判断DI(3カ月前からの景気認識の変化、季調値)は、前月から▲4.0pと大幅に低下し、49.9となった。これは消費税増税のあった14年4月(同▲15.7p)以降では最大の低下幅である。
- 家計動向関連は全項目が低下しているが、小売関連(前月差▲5.4p)、飲食関連(同▲4.4p)の低下幅が大きい。食品価格の上昇に伴う消費の抑制や、大雪や寒波の影響で外出を控える人が多かったこと等が影響している。
- 企業動向関連は、非製造業(前月差▲1.2p)に比べて製造業(同▲4.6p)の低下幅が大きい。原油高に伴う原材料の値上げ、人手不足による人件費の高騰が懸念材料となっている。また今年の1月は年末年始の休みが長く稼働日が少なかったことや、大雪の影響で輸送遅延等が発生したこともマイナスに寄与した。
- 景気の先行き判断DI(2~3カ月前までの変化)は52.4と、前月から▲0.3p低下したが、横這い圏内で推移している。

#### 消費動向調査(1/31公表)

- 18年1月の消費者態度指数(今後半年間の消費者意識の変化、季調値)は、前月と変わらず44.7となり、13年9月以来の水準を維持している。
- 構成要素は、「雇用環境」が労働需給の一層の逼迫を背景に前月差+0.7pと上昇した。一方、「収入の増え方」「耐久消費財の買い時判断」が同▲0.1p、「暮らし向き」が▲0.3p低下した。「暮らし向き」は、食品やエネルギー価格の上昇が影響しているとみられる。

#### 基調判断と今後の流れ

- 家計と企業のマインドは回復基調にあるが、18年1月は天候不順を主因に低下した。
- 家計・企業マインドの先行きは回復基調を持続するとみるが、エネルギー価格の上昇や調整局面に入った株式市場の動向、天候要因等が重石となり、2月以降も当面は緩やかな回復にとどまるだろう。